

故谷内さんのリトグラフ

富岡・上州水土舎に2点届く



上州水土舎に届いた谷内六郎さんの版画

富岡市後賈の知的障害者通所施設施設、上州水土舎(金谷透施設長)に九日、「週刊新潮」の表紙絵で有名な画家、故谷内六郎さん(一九二一—八一年、東京都出身)の石版画(リトグラフ)二点が届き、利用者らを喜ばせている。金谷施設長は人権啓発活動を通じて谷内さんや妻の達子(みちこ)さんと交流があり、「施設内に飾ってほしい」と達子さんから贈られた。

届いたのは「おもしろい宿題」

(二百三十一頁×三百三十七頁)と「柿ののれん」(三百十頁×二百二十四頁、七七年)。小学生が遊びに夢中になっている間に、ランドセルの中のプリントをヤギが食べ

てしまったり、干しカキをのれんのようにかさわけるなど、日本の四季を詩情豊かに描いている。谷内さんの「週刊新潮」表紙絵千三百三枚の中でも、特に評価の高い作品という。

石版画は谷内さんの生誕八十年を祝い、長野県の業者が百八十五部に限定して作った。上州水土舎に届いたのは百八十五部とは別の版權者愛蔵版で、より価値が高い。金谷施設長は「貴重な品をいただき、驚いている。いい場所を選んで訪れる人に楽しんでほしい」と話している。